

## 推薦調書（実装部門）

表彰区分	市	推薦都道府県	京都府
地方公共団体名	福知山市		
取組名称	子どもたちが住みつづけるまち創造事業 （電子書籍を活用した子育て支援拠点の構築）		
連携自治体、企業、団体等	児童科学館、動物園、植物園、図書館、市内各小・中学校、NPO法人		
デジタルを活用した取組の概要 （デジタルを活用した取組の全体概要と解決する個別課題の具体的内容）	（種類）	①	（左記が①の場合 の分野） 子育て
	<p><b>【デジタルを活用した取組の全体概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て世代が安心して子育てができ、人と人がつながりを持てるようなまちづくりを目指して、福知山市が「ふくちやま電子図書館」を開設して電子書籍による学びを提供するとともに、子どもたちが様々な「学び」「遊び」「体験」をする施設を複合的に配置している三段池公園において、電子書籍を利用した、子どもたちが住みつづけるまちの核となる交流拠点化を進める（子育て世代の交流、子どもたちの学びのサポートなど）。</li> </ul> <p><b>【実施に至る経緯・動機】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福知山市は、全国的にも高い合計特殊出生率（2.02）を維持し、子育て世代も多いことから、地域で安心して子育てができる環境を確保するため、妊娠・出産期から子どもの自立期までを切れ目なくサポートする「子育て総合相談窓口」において、時間を気にせず気軽に相談できる「子育てLINE相談」など、子育て世代のニーズに合った相談支援を行うとともに、子育て世代の交流・相談の機会を充実させる取組を進めている。</li> <li>・市郊外にある三段池公園においては、動物園、児童科学館、植物園、体育館、武道館など、子どもの「学び」「遊び」「体験」に必要な施設を公園内に整備し、交流拠点としても市民に親しまれている。</li> <li>・一方で、市立図書館と距離が離れており、動物園、植物園を楽しんだり、児童科学館における実験、天体観測等の体験や学習をする児童や親子などから「今見たこと、学んだことを書籍等で調べたい」とのニーズに応え切れていなかった。</li> <li>・幼児・児童・中学生向けの書籍を多数所蔵している市立図書館において、新型コロナウイルス感染対策として利用制限をする必要があり、子どもたちが読書をする機会が少なくなることが懸念されていた。</li> </ul> <p><b>【解決した課題の具体的内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童科学館における実験教室、天体観測等などで「体験した」、動物園、植物園で「見た」新しい知識について、公園内で図書等により「学ぶ」機会を拡大した。</li> <li>・令和4年1月に「ふくちやま電子図書館」を開設し、児童書や絵本約4,600冊の「電子書籍」を配架するとともに、初回利用登録後は、個人が所有するスマートフォン、パソコン、タブレット等の端末でシステムにロ</li> </ul>		

	<p>グインすることで、電子書籍の貸出、閲覧及び返却といった全ての手続きを、図書館に来館することなく行うことができる仕組みを構築した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・合わせて、三段池公園内の児童科学館内にOPAC（蔵書検索端末）やタブレット型端末を導入し、今まで公園内に不足していた「図書館的機能」を提供し、子どもの「学び」「遊び」「体験」が複合的に可能な子育て支援の拠点としての機能が強化された。</li> </ul>
<p>デジタルを活用した取組による成果（成果がわかるデータ・数値）</p>	<p>【取組のアウトプット】令和3年度（令和4年1月～3月）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電子書籍コンテンツ導入：4,687冊</li> <li>・電子書籍ログイン数（利用者が子ども）：91,450回（延べ）</li> </ul> <p>【取組のアウトカム】令和3年度（令和4年1月～3月）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電子書籍貸出冊数（利用者が子ども）：53,727冊（延べ）</li> <li>・児童書・絵本の貸出冊数：39,097冊（延べ）</li> </ul> <p>※いずれも、福知山市全体の成果を記載</p>
<p>本取組の特徴的な点やデジタルの活用において工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット型端末を活用することで、公園内の動物園、児童科学館、植物園等のフィールドワークにおけるリアルな自然体験活動と、電子書籍に登場する動植物や科学などが結び付くというハイブリッドな体験により、子どもたちの興味や知識をより深め、さらなる学びや交流へつなげる仕掛けづくりを心がけた。</li> <li>・令和4年秋に三段池公園の総合体育館内に整備を予定している子育て支援拠点においても、紙の書籍を設置して子育て世代が気軽に読書に親しむとともに、子どもたちと一緒に楽しむことのできる電子書籍、例えば、音や動きのある絵本等を優先して取り揃え、「子どもの育ち・交流」を重点においた。</li> </ul>
<p>今後の展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年秋に整備予定の子育て支援拠点において、電子書籍やタブレット型端末を活用した子育て支援を強化し、子どもたちの学びや親子間の交流の促進につながるような仕掛けづくり（例えば、電子書籍をスクリーンに映し、旬の野菜を用いた親子クッキング教室を開催する。子育て相談の対応に電子図書館内の子育て情報を活用する。タブレット端末で他の子育て支援拠点と交流する。等）にも取り組んでいく。</li> <li>・三段池公園一帯において、NPOや企業と連携した子ども向けの体験活動、親子スポーツ教室等のイベント、地元食材のマルシェや親子向け食育活動などを実施し、その取組においても電子書籍を積極的に活用し、子育て世代の交流や子どもたちの育ちをサポートしていく。</li> <li>・併せて、市全体でも電子書籍を積極的に活用し、子育てに役立つ情報の発信や子育ての課題解決につなげるため、「ふくちやま電子図書館」内に子育てに関するテーマで毎月特集展示を実施するとともに、子育て関連の情報が簡単に得られるよう、市ホームページの子育て応援サイトに直接アクセスできるバナーを設置し、子育て世代の電子図書館の認知度をアップさせていく。</li> <li>・こうした、電子、紙の書籍それぞれの良さを活かしたハイブリッドな体験を通して、子育て世代が満足し、子どもたちが住みつづけるまちの実現をめざしていく。</li> </ul>

「子どもたちが住みつづけるまち創造事業（電子書籍を活用した子育て支援拠点の構築）」概要図

福知山市  
猪崎・駅前町等地区

子どもたちが住みつづけるまち創造事業

事業の概要・背景

【概要】

○三段池公園を子育て世代のコミュニティ拠点として位置づけ、総合体育館と児童科学館を整備し、子育てにゆとりが持てる子育て支援の提供を図る。

【背景】

- 全国的にも高い合計特殊出生率(2.02)を維持し、子育て世代も多いことから、孤立感や疎外感を持たずに地域で安心して子育てができる環境を確保する必要がある。特に子育て世代が多く利用する三段池公園で子ども同士、親子での交流拠点として更なる施設の充実が望まれている。
- 児童科学館では、児童向けに実験教室、天体観測、夏休みの自由研究に関する相談などを実施しているが、子ども達が調べるための図書が不足しており、図書の充実と併せて、図書館等との連携が課題になっている。
- 新型コロナウイルス感染対策の影響により、非来館による電子図書サービスのニーズが高く、電子図書サービスの導入が望まれている。

主な事業

◇: 交付対象事業  
◆: 関連事業

- ◇子育て世代が集い、交流できる環境整備事業
- ◇企業や地域事業者と連携した子育て支援事業
- ◇図書館のハイブリット化に係る児童電子図書購入事業
- ◆図書館のハイブリット化に係る蔵書検索システム、電子書籍貸出サービスコンテンツ購入

成果指標

- 三段池公園利用件数  
(児童科学館・動物園・植物園)
- 子育て世代のカフェ利用者数
- 子育て支援満足度  
(就学前児童を持つ保護者)

	令和3年(基準値)	令和6年(目標値)
三段池公園利用件数 (児童科学館・動物園・植物園)	115,000人	122,500人
子育て世代のカフェ利用者数	0人	10,000人
子育て支援満足度 (就学前児童を持つ保護者)	24%	30%

モデル性に係る取組(実現性・継続性・創意工夫)

ポイント

総合運動公園としての特徴である学習・スポーツ推進の場所に、子育て世代が集い、交流できる空間を充実させ、地元の事業者と連携しながら、子どもたちが様々な学びや体験ができることにより、子どもが住み続けたいようなまち、帰りたくなるようなまちを創造する。

- 三段池公園の既存施設の再整備を実施し、より子育て世代が利用しやすい環境整備を行う。
- 三段池公園と図書館が連携することにより、子どもたちの学びに対するサポートを強化する。
- NPO団体や企業等と一体となって、子ども・子育て世代への支援を強化していくことで、子育て世代等の若者の定住促進につなげていく。

